

市長と本気で語るタウンミーティング

「言っちゃお！市長と。」

－高校生世代－

令和7年10月22日（水）

立川市市長公室改革推進課

市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」議事録
【対象者別】ヒューマンキャンパス立川校（概要）

日時：令和7年10月22日（水）

13時20分～15時30分

場所：ヒューマンキャンパス立川校

1 開会の挨拶及び生徒の自己紹介

（改革推進課長）

それでは、定刻前ではございますけれども、「市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」」を開催いたします。

本日は、立川に通い、立川で学ぶ高校生世代の方々を対象としたタウンミーティングということで、ヒューマンキャンパス立川校様に多大なるご協力をいただきまして、皆様のホームであるこちらにお邪魔して「市長と本気で語るタウンミーティング」を開催したというところでございます。このような機会をつくっていただきました田中先生をはじめ、生徒の皆様に改めてお礼を申し上げます。

それでは、最初に、酒井市長からご挨拶をお願いいたします。

（市長）

皆さん、こんにちは。立川で市長をやっております酒井と申します。

今日は、皆さん、本来であれば勉強やいろんな活動する時間を、タウンミーティングのために取っていただいております。

僕も市長になってここで丸2年が経過したんですけれども、市内いろいろなところでこういったタウンミーティングをやらせていただいています。「言っちゃお！市長と。」ってのはじけた感じでしょう。半分冗談、半分本気なんですけれども、令和5年度は前の市長さんからのやり方を受け継いで1時間の枠でお話をしていました。しかし1時間だと足りないなっていうので、拡大をしました。過去、立川のこういうミーティングは、前の市長さんのときには「市長と語ろう」と言っていて、さらにその前の市長さんのときには市政懇談会と言っていたので、それでは僕はどうしようかなと考え、「本気で語るタウンミーティング 行っちゃお！市長に。」ではなくて「市長と。」と命名しました。「に」と「と」では違うじゃないですか。「に」というのは、一方的に市民の皆さんが市長に言いたいことを言ってやろうということだけれども、話をする以上は、市長と一緒に立川のまち、未来を考えていこうという、そういった意図があって「に」ではなく「と」という形にしました。

いろんな市民の皆さんから意見をいただくこともあるんですけれども、昨年度は星槎国際高校の皆さんと話をさせていただきました。いろんな生い立ちがあり、いろんな経験をされていました。その中で不登校を経験していることを話してくれた生徒さんがいまして、言える範囲で何が原因だったのっていう話をしました。その生徒さんは色が分からない、見えにくいという特性があり、黒板とかホワイトボードを見るために、特殊な眼鏡していたんだけど、友達も先生の理解もなく、学校に行くのが嫌になってしまったそうです。周りが（その特性に）理解を広めていけば、別の生き方にも、自分の思う未来に向かっても、いろんなルートを選べていいんじゃないのかなというふうに思いながら星槎国際高校の皆さんとお話をさ

せていただきました。

ぜひざっくばらんに、市長だからって肩肘を張らずに、壁を作らなくていいので、どうぞよろしくをお願いします。

（改革推進課長）

市長、ありがとうございました。

続いて、本日の出席者の事務局の紹介をさせていただきたいと思います。

私は、本日の司会を務めます市長公室改革推進課長の野口でございます。よろしくお願いいたします。

本日は日頃から地域活動等に参加されている生徒さんを中心にお集まりいただいたと伺っております。ご参加いただきましてありがとうございます。

もっとこうしたらいいまちになるんじゃないかということを、ぜひ直接市長にお伝えいただき、本気で語り合っていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の予定ですけれども、この後ヒューマンキャンパス立川校の皆さんに簡単に自己紹介をしていただき、その後意見交換を行いたいと思っております。意見交換終了後、酒井市長から閉会のご挨拶があり、最後に集合写真を撮って15時に終了予定という段取りで進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

続きまして、意見交換に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。次第、メモ用紙、参加者アンケートの結果の3点をご用意しております。参加者アンケートにつきましてはお帰りの際に回収させていただきますので、ご協力をお願いいたします。それ以外のものはお持ち帰りください。

また、記録やホームページ等の掲載用として写真撮影と録音をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、市長との意見交換に入る前に、皆さんに簡単に自己紹介をしていただければと思います。1人1分程度で、名前、学年、立川市の推しポイント、以上3点を教えてください。推しポイントについては何でも構いません。よろしくお願いいたします。

（改革推進課長）

それでは先生からお願いします。

（先生）

本日はよろしくお願いいたします。

趣味は手芸とサッカー観戦が好きなので、今日勝負服で来ました。サッカー観戦ということで静岡に行ったりしてしまして、いつもそれを話しているんですけども、（繰り返し話過ぎて）最近みんなの反応があんまりよろしくないです。今日は、よろしくお願いいたします。

（市長）

お願いいたします。

（改革推進課長）

では、次の方、よろしくお願いいたします。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校1年生です。

趣味はめちゃくちゃゲームが大好きで、いろんなゲームをやったりして、すごい楽しい人生を送っています。

立川市の推しポイントは、おいしいお店とかいっぱいあるところです。

(市長)

何屋さん系ですか。

(参加者)

やっぱり、ラーメンが一番多い気がするんです。

あと、住んでいる場所は、日の出町に住んでいます。

(市長)

ごみの処理ではお世話になっています。最終処分場で、今あそこでエコセメントを作っています。

(参加者)

そうなんですね。

(市長)

多摩中の人たちが日の出町にはお世話になっています。

(改革推進課長)

ありがとうございました。それでは次の方。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校3年生です。

好きなことは、アニメを見たりゲームすることが好きですね。アニメだと「けいおん!」っていうアニメがすごく好きです。結構曲とかも好きですね。

立川市のいいところ、結構イベントが多い。何かグローバルな海外とかのイベントがあったりとか、何かお祭りだったりとか、そういう海外の踊りとか、そういうものが取り入れられているというのがすごい。よろしくお願いします。

(市長)

よろしくお願いします。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校2年生です。

住んでいるところは、立川市の隅っこの国立市の市境の羽衣町に住んでいます。

趣味が、アニメを見るのが好きで、立川市の好きなところもアニメイトとか結構オタクが行きやすい場所がいっぱいあるなっていうのが好きですね。

(先生)

それでは次の方、お願いします。

(参加者)

同じく2年生です。

住んでいるところが、富士見町六丁目です。

(市長)

昭島に近い感じですか。

(参加者)

そうですね。ぎりぎりのところに住んでいて、趣味がアニメと漫画とゲームです。一応、この後ろの（ホワイトボードに描かれている）絵は私が描いて、この何か名前をつけてくださって書いているやつをぜひ市長につけていただきたいと思います。

(市長)

これはハードル高いですね。

(参加者)

今でも後でも大丈夫なので。

(市長)

考えます。

(参加者)

よろしくお願いします。

(先生)

ありがとうございました。

それでは次の方、お願いします。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校1年です。

住んでいるところは、立川市の羽衣町です。

趣味が、野球観戦が好きです。

(市長)

渋いね。僕らの頃と一緒にだよ。どこファンですか。

(参加者)

巨人です。巨人ファンです。

立川のお勧めは、個人的に、サンサンロードを歩くのが好きです。雰囲気が好きです。あと、

ら一めんばったばたの隣の定食屋さんみたいなご飯屋さん。豚カツがおいしいです。

(改革推進課長)

今度行ってみます。

(市長)

ありがとうございました。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校2年です。

住んでいるところは、青梅市のほうにずっと住んでいます。

(市長)

最近、熊は大丈夫ですか。

(参加者)

大丈夫なほうです。

趣味はお菓子作りがで、よく学校で配っています。

立川のお勧めポイントは、商業施設がたくさんあるけれども、その中でも緑がたくさんあったりして、GREEN SPRINGSとかよくお散歩していたりするので、そこが好きです。よろしくお願いします。

(先生)

次の方、お待たせしました。

(参加者)

ヒューマンキャンパス1年です。

住んでいるところは立川市の上砂町のほうで、趣味はゲームをしています。

立川のお勧めポイントは、最近だと結構アニメイト行ったりしているので、いいなと思います。

(市長)

上砂町、来るの大変だよね。

(参加者)

30分かかる。

お願いします。ありがとうございます。

(先生)

それでは、最後、お願いします。

(参加者)

ヒューマンキャンパス高等学校3年生です。

住んでいるところは、川崎市の多摩区に住んでいます。

趣味は、ちょっと最近ぱっとした趣味がなくて模索中なんですけれども、やっぱり移動中とかは音楽聞くのが結構好きで、家でも流したりはしているかなっていう感じで、それが今メインかなと。

(市長)

僕もぱっとした趣味がないんだよね、最近。

(参加者)

そろそろ熱中できるものが欲しいなと思っているんですけども。

(市長)

でも、僕、うちの妻には趣味が仕事になっているんじゃないって言われます。

(参加者)

立川の好きなのは、カスケードとかで夜お散歩するの結構好きで、きれいじゃないですか、青く夜ライトアップされていて。そういうところへ行ったりとか、意外と何か小道とかも多いので、何かふらっと入ったらちょっとお店があって、あ、こんなところにこんなお店あったみたいなのあったりするんで、そういうところ面白いかなというふうに思います。

(市長)

ありがとうございました。

2 意見交換

(改革推進課長)

それでは、本題に意見交換に入りたいと思います。

まず、本日の意見交換のテーマは、①若者世代にとっての立川市の魅力は何だと思いますか。もしくは、こんな魅力が足りていないというところがあればお聞かせください。

②これまでの人生を振り返り、苦労したこと、困ったことは何ですか。また、そのとき、親、学校の先生をはじめ、市長や周りの大人にやってほしかった、こういうことに理解をしてほしかったというようなことがあれば、お聞かせをお願いしたいと思います。

③番、その他、テーマ以外で市長にご質問がございましたら、お聞かせをいただければと思います。

この3つで意見交換をしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

基本的には市長と生徒の皆さんでやり取りをしていただく形となりますが、私のほうで適宜進行の補助をしたいと思います。

では、まず1つ目のテーマから早速始めたいと思います。

立川市の若者にとっての魅力は何だと思いますか。もしくは、こんな魅力が足りていないというところがあればお聞かせください。どなたでも何でも構いませんので、手を挙げていただければと思います。いかがでしょうか。

(先生)

どうですかね。ぜひ、意見がある方はどうですか。
それでは、お願いします。

（参加者）

立川地域の夏祭りなどに参加できるというところです。ボランティア活動だとかに参加できたり、あとは地域密着型で、そこで交流が生まれたりしていいなっているのがあります。

あとは、昔から、自分が小学校のときから、あるイベントにはもう高校生になっても大人になっても何か参加してくれる地域の方が多いという。お祭り行ったら、あ、久しぶりって友達に会えたりっていうことが多いです。そこが魅力だなって思います。

（市長）

ありがとうございます。

でも、今その一方で、なかなかお祭りとかね、各自治会、ここら辺でも各町会でやっているんだけど、僕が住んでいるところは曙町はだんだん手伝ってくれる人少なくなっています。小学生だとか子どもたちは例えば盆踊りをやると集まってくるんだけど、その一方でなかなか、担い手不足っていうのはどこの町会も同じです。

なので、いかに、楽しんでもくれる人をうまくこうマッチングされるかが重要だと思います。町会によるんだよね。よく来たねっていうところもあれば、あなた誰みたいなのところもあるので、そこら辺はぜひいろんな方に、そこに住んでいなくても、一緒に楽しめればいいなと思います。

明日自治連の役員の皆さんと懇談会があるから、地域の夏祭りなんかが好きな高校生もいますよって伝えます。今、会員減少でどうしようと困っているようです。単発でも何かイベントをやるときに一緒にやってくれる人がいて、うまく門戸を広げるっていうこともやっていますって逆に提案してみよう。ありがとうございます。

（改革推進課長）

ありがとうございます。

次の質問ある方、どなたか大丈夫ですか。

（参加者）

さっきもちょっと出ていたんですけれども、お店が本当にたくさんあって、何かほかのまちとかに行かなくても全部立川でそろそろみたいなのが本当にすごいなと思っています。その反面、やっぱり立川に全部あるから、ほかのまちからの人がいっぱいいて常に人混み状態っていうのは、人混みが苦手でお出かけしにくいなって思うときがたまにあります。

（先生）

本校は、個別指導とかを重視している反面、文化祭とか体育祭とかがないので、みんなで協力して、クラスイベントとかはやっているんですけれども、そういうわいわい系あまり好きじゃない、あと人混みが好きじゃないっていう子も多いかな。

（市長）

僕もあんまり人混みは得意ではなく、だから、あんまり電車に乗るの好きじゃないんだよね。でも、本当に市長としては、市のにぎわいという形ではいろんな方に来ていただきたいという

思いもあるし、こういう学校もいろいろと集まってきます。だけれども、その一方で、駅前の客引きすごいじゃないですか。昔は駅のコンコースとかでもスカウト系の何か黒服のおじさんたちがいました。

都の条例もあって最近そこまでではないし、新宿の歌舞伎町に比べれば全然少ないんだけど、体感治安は人によって違います。市民の方からも言われて、人が集まるということは、いいお客さんも来れば、ちょっとねっていう人も来るし、人のにぎわうところには人がさらに集まって経済も回るという側面もあれば、客引きのような迷惑行為的なところもあるし、そこら辺が課題です。

(参加者)

ありがとうございます。

(先生)

次は、内容がかぶっていると思うけれども、頑張って。

(参加者)

はい。同じ内容で申し訳ないんですけども、まず魅力としては、駅周辺が栄えていて、何か、学生なので放課後遊びに行ったりとかするわけなんですけれども、グランデュオとかルミネとかエキュートも駅にはあって、遊びに困らないっていうか。ゲーセンもいっぱいあるし、映画館とか3つもあるじゃないですか。それで、すごい、めっちゃ楽しんでいるんですけども、ちょっとその分、市長も言っていたキャッチっていうか客引きが最近ちょっと目立つようになってきたっていうのは若干あるんですけども、特に夜とか、南口辺りにちょっとはびこっているな。

(市長)

何か怖い思いとか、何か嫌な感じに出会ったこととかってありますか。

(参加者)

ぐいぐいは来られたことはないんですけども。

大体、未成年っていえば、あっちはどこか行っちゃうので大丈夫なんですけれども、だから、未成年側としてはちょっと怖いなという思いはあるなって思います。

(先生)

高校生になってからそういう声をかけられるようになったんですか。

(参加者)

中学の頃はそこまで目立っていなかったなと思うんですけども、高校に入ってから割とそういうのに声かけられるタイミングが多くて。

(市長)

向こうも大人認定しているんだよね、多分。あとは、ご自身も多分昔に比べると行動半径が広がっているところに、そういう人がいるところなのかもしれませんね。

(先生)

それはあるかなと。生徒たちはカラオケとかよく行ったりとかするんですけれども。

(市長)

さっきの話の南口客引きの件は、警察もいたちごっこなんだけれども、警察だけじゃなくて、警備会社の方にパトロールしてもらっています。向こうに威圧感与えるようなこういう、ちょっと黒い服を着た人が回っているでしょう。市議会の皆さんからも提案があって、ぐるぐる回るだけでなく、試験的にずっと続ける定点での警備をやってみようかと考えています。それで効果があるのかどうなのかっていうことは警察とも話していきます。

(先生)

ありがとうございます。

次の方をお願いします。

(参加者)

さっきとかぶっちゃうんですけれども、いいところは店がいっぱいあって、友達と店回ってみたりとか、遊んだりできていいと思っていて、遊んでいて、やっぱり夜暗くなって、最近日が短くなって。そのときに思ったのが、何か暗過ぎて道が分かりにくい。

帰るときに違う、何かもう曲がる道過ぎちゃっているときもあって、たまに。もうちょっと電柱とか増やしてほしいなと思っています。

(市長)

そういう話があったときに、一方で、どこかの電柱に明かりをつけると、場所によってはその近くの家の人が一晩中明る過ぎるっていうことを言われることが結構あるんです。だから、どのぐらいの間隔で、夜照度をどれぐらいに保つのかっていうところは課題です。

商店街が明るいのは、商店街振興で明かりをつけているんですよ、市も補助出したりして。明るさの基準っていうのは違うんだけれども、一応道路課のほうで、市内全域を見たときに、この最低照度はちゃんとクリアできているのか、できていないエリアはないか抽出してみます。

(改革推進課長)

ちょっと余談ですけれども、照度の関係が、やっぱり植物の影響ね、どうしてもやっぱり畑とかに近いと、明る過ぎちゃうと影響があります。

(市長)

そうか、それもありますね。

(改革推進課長)

昼夜やっぱりちゃんとそういうサイクルで、例えば野菜育てたりするとそういう影響があります。

(改革推進課長)

他に意見がある方がいたらお願いします。

（参加者）

結構みんなからちょこちょこ話も出ているんですけれども、遊び場所って意外と多いようなんですけれども、商業施設が多くて、早くても本当8時とかには閉まっちゃうじゃないですか。やっぱりみんなで楽しく話していると、どうしても時間ってもうどんどん過ぎていっちゃって、9時とかは平気になっちゃうんですね。やっぱり、うちの学校ならではのでもあると思うんですけれども、放課後うち塾やっているので、学校に長居するっていうのができる日もあればできない日もあってっていう感じなんですよね。そうなったときに、長居できる場所って意外と立川市少ないなっていうふうにちょっと思っていて、何か高校生だからこそ、ちょっと夜遅くまで出歩いてもよくなっているからこそみんなで楽しく遊びたいんですけれども、近くに学習館とかもあるんですけれども、そっちまで行っちゃうとやっぱり勉強している人とか大人の方でもいらっしゃるので、楽しく話すっていうのってなかなか難しいなっていうふうに思っていて、やっぱり長居できる、完全無償じゃなくてももちろんいいんですけれども、できれば無償で長居できるような、そういう楽しく遊べる場所ないかなっていうふうに思います。

（市長）

そうですね。学習館でも、北口のファーレのところのアイムでも結構夜9時ぐらいまではスペース開放しているんですけども、みんな勉強やっているんだよね。だから、図書館にしても話しづらいかな。ちょっとこれは宿題で考えさせてください。

あんまりガチャガチャ騒いでいると、また今度市民から高校生がたむろしてとかって苦情が入ってしまう。だから、周りの人にそんなに迷惑かけない程度に、ある程度声を出してもいいというような、行き場所なんだよね。ちょっと何か考えてみます。

（改革推進課長）

ありがとうございました。

そろそろいい時間になってきたので、次のテーマに移ります。本日のメインのテーマかなと思っています。私もここ非常に関心があって、ぜひ皆さんの率直な意見を伺いたいなと思っていますので、先ほど2番目の、今までの人生の中で、周りの大人、親も含めて、教師、先生も含めて伝えたかったこと、そういったところもこの場を活用してぜひ市長にお伝えいただければと思います。よろしくお願いします。

（参加者）

これまでのやっぱり苦労したことですが、自分が小4の夏休み明けからほとんど学校に行っていないくて、それで苦労したんですけれども、やっぱり人間関係がちょっとあんまりよくなかった。小学校のときは、結構担任の先生が一昔前の熱血教師のような感じで。

（市長）

熱血先生ですか。

（参加者）

そう。体育会系の教師で、何かこう、大丈夫だって、やればできるよみたいな、そんな感じの。

それで、ちょっと苦手でだんだん嫌になっちゃって、夏休み、やっぱり長い休みがあって、

そこからも夏休み明けも行きたくななくなっちゃって、そこから行かなくなつて。また中学校に上がって、新しい環境になってあんまり慣れていかなくて。最初のほう無理してちょっと行っていたんですけども、それでやっぱり反動で行かなくなっちゃって、通級ってあるじゃないですか。通級に行っていたんですけども、通級ってあくまでどう教室に戻せばいいかみたいな、それがやっぱり無理やり戻そうとする感じがあって。自分的にはゆっくり慣れていって普通の教室に戻ろうかなっていう思いもあったんですけども、無理に教室今日行ってみないとか言われていて、そういうのが……。

（市長）

誘導される感じがしたんですね。

（参加者）

そうなんです。個人的にそのときは自分の意見を通すみたいのが苦手で、それで流されて嫌々行っていたみたいな感じがあったので、そういう。あと、中学のときの教師も熱血系で、3年間。

（市長）

珍しいよね、今どき。僕らの頃はたくさんいたけれども。

（参加者）

それで、やっぱり嫌になっちゃってみたいない感じ。やっぱり、周りの何か親とかは理解してくれたんですけども、教師とか校長の人と話す機会もあったんですけども、言いにくくて、人間関係、合う、合わないってやっぱりあるじゃないですか。そういうのを何かもうちょっと考えてほしい、気遣ったりとかしてほしかったかな。

（市長）

やっぱり第三者的な存在、例えば校長先生がそれこそフランクだと、そういう、嫌なことだとか、原因を聞いてもらえるような人がいたらいいですよ。そういう環境って必要だよ。校長先生も熱血だったんですか。

（参加者）

校長先生はそうでもないんですけども、上の人に何か言うってやっぱり中学校の頃だと難しく、人と話すのも嫌になった。

（市長）

そうだったんですね。参考に教えてほしいんですけども、そういう状況に、例えば何かあってあなたが学校に来られなくなりました。それじゃあ、どれくらいの期間をあけて、どういったタイミングで何かしらの声がけをするようなことがあれば、違っていたかもということはあると思いますか。辛かったら全然言わなくてもいいので、どういうふうに周りの大人があなたに接していたらその何か状況って変わっていたかもしれないと思うことはありますか。

（参加者）

そうですね。学校に行かなくなった小4って幼かったのもあって、親にも言いたくないとい

うか。最初2週間休んでいたんです。それで、毎日引きずられて車に乗せられそうになりながら……

（市長）

親はとにかく行けっていうんですね。

（参加者）

それに抵抗して2週間休んで、保健室に行くかとお母さんに言われて、保健室に月に1回と行っていて、そこから何か、お母さんが学校側に相談してくれたのか、何か親経由で学校関連の人に広まるみたいに思っちゃって、それが何か嫌で相談しにくかった。

（市長）

要は友達関係でどうのこうのというよりも、先生との関係がメインだったんでしょうか、きっかけは。

（参加者）

そうですね。根本的には、ちょっと担任があんまり好きじゃなくて。

（市長）

それってでも、休みが続いちゃうとなかなか教室に戻りづらいついていうのもあるよね。

（参加者）

はい。

（先生）

今はどうして学校にこられるようになったんですか。

（参加者）

多分、遠いじゃないですか、家から。知り合いがほぼいない。あとは、いつも何か環境が変わるのはあんまり好きじゃなかったんですけども、環境が変わると同時に、何か逆に自分自身も高校生活でがらっと変わって、それで何か、もともとは何かめっちゃうるさいって言われるくらい明るい性格だったんですけども、中2でマジで学校が本当嫌になって鬱っぽくなっていたんですけども。中3で友達とまた何か教室に1回頑張って行ってみたんですけども、みんな話しかけてくれて、何か案外楽しいなと思って。それで教室に戻るようになって、高校になってからみんな受け入れてくれるって思って来られるようになった。

（市長）

きっかけは友達との関係だったんですね。

（参加者）

そうです。

(先生)

ここにいる子たちは全員不登校を経験したことがあるんですけども、何かしら、今も困難を抱えつつ、でも乗り越えようとしています。

(市長)

そうだよね。学校が全てじゃないんだよ、人生って。勉強できても社会で自分の目的を達成できるかっていうとそうでもないし、生き抜く力が別のところで身につけている人は、それはそれでいい。人それぞれだからね。最近、何が何でも学校へ行けて話でもないけれども、でも、何もアプローチしないとそれはそれで良くない。何か社会と関わりを持っていられるといいんだよなと思います。

立川は中学生になると不登校の率が都内の平均値よりも高いんです。例えばフリースクールとかに行っているのって積極的不登校だったりするわけですが、それも不登校にカウントされちゃうんだよね。学校側から見ると、来ていない扱いになってしまう。でも、そっちのほうがいいって選んでいる（子どももいます）。そうじゃない完全な不登校の状況に置かれてしまっている子どもたちをどういうふうに、その子たちになるべく望む方向で、誰かしらと何かしらの関わりを持っていないと世の中で生きていけなくなってしまう。濃淡はあっても、社会との関わり方っていうのは持っていないとね。友達というキーワードでここに来ようっていうことにつながっているわけだから、まとまりがなくて申し訳ないんだけど、いろんな状況のパターンを聞かせていただくと、支援のメニューの幅が広がるかなと思っています。ありがとうございます。

(改革推進課長)

ありがとうございました。それでは他にある方いますか。

(参加者)

はい。中3の10月あたりから行かなくなっちゃって、もともと何かちょっと体質というか、過敏性腸症候群、ちょっと胃とかお腹痛くなっちゃうみたいな感じで、結構早退とか繰り返していたんですけども、きっかけとしては何か、親友とけんかしちゃって、それでもう会いたくないってなっちゃって行かなくなったんですけども、そこからもう保健室登校とかもしないでずっと行かない期間が続いていてみたいな感じで、ちょっと卒業あたりでちょこちょこ先生に会いに行ったりとかはしていたんですけども。それで何か1回保健室の先生にカウンセリングを受けてみたらみたいな感じで言われて、受けてみたんです。

(市長)

スクールカウンセラーですか。

(参加者)

はい。その学校のカウンセラーさんのところに相談に行ったんですよ。何かカウンセリングって重いじゃないですか、空気が。

(市長)

僕はスクールカウンセラーさんに相談に行ったことがないので、役に立つ場合もあるけれど

も、立たない場合もあるんじゃないのかなと思いつつ、どうなんだろうって思っています。

(参加者)

私の想像としては何かもっと明るい感じで、最初は何か普通に雑談とかして、そこから流れで移行するのかなみたいなことを思っていたんですけども、最初から重い感じで。ただ尋問みたいな感じで、どうしたのみたいな感じで話の流れができちゃって、そういう何か苦しい空気感だと自分もしゃべれなくなっちゃうので。自分が本当に言いたかったこととか、別に何かその親友とけんかした件だけじゃなくて、普通にもう何か、自分が何でこんなに悩んでいるのかもちょっとよく分かっていなかったから、そういうところも相談したかったんですけども。ちょっとあんまり話せなくてみたいな感じでちょっと困ったみたいな感じで、もっとフレンドリーだったらよかったな。

(市長)

カウンセリングを受けたことがないから分からないんだけど、全く別の話をしながらどこに原因があるのかっていう、心の中の闇に包まれちゃっているところを、カウンセリングの技術で明らかにできることがあるんじゃないのかなって勝手に思っていたんだけど、そんなふうにはならないわけですか。

(参加者)

そう。何か、テレビとかネットの情報だとかもっと何かいろいろあったんですけど。

(直前の参加者とは別の参加者)

うちの学校の人も結構直接悩みを聞き出す感じでやっていました。

(市長)

人にもよるね。そのケース・バイ・ケース。私真剣に話しているのに、何でそんなに軽いんですかっていう逆に不快に思う人もいる。さっきどういう受皿とか、積極的に介入したほうがいいのか、待ちがいいのか、タイミングはという話のなかでも、その相談相手も、その子どもにとって、それが適切にできるかどうかは、相談を受ける側の能力なんだよね。この子はこういうふうに接するのがいいのかっていうことを、プロであれば柔らかくしてみようとか、重くしてみようとかっていうのを見極められる能力も持っているのが本当はベストなんだよね。

最後に聞きたいのは、今なぜ学校に来られるようになったのか、こういうことを経験しつつも来られるようになっているきっかけって何だったのかなということです。そうなるきっかけの部分に大人がどうやって介入とか助言とか手助けをしたらいいのかなと思います。

(参加者)

そうですね。もともと私は通信じゃなくて普通の高校に行こうと思っていたんですけども、ここに行きたいって言ったときは、親にちょっと否定されちゃったんですよ。それで、あれって感じでちょっと駄目なんだと思ったんですけども、不登校になったときにも何かこの体験授業とか行ったりして、ここがいいみたいな感じでなって、じゃどうするみたいな感じの流れでここに入学したんですけども、そういう何か、親とかにもちょっと、カウンセリングの話にちょっと戻っちゃうんですけども、相談したことあって。そのときも何か、そういうのはちょっとよくないんじゃないみたいな感じで否定的な意見がちょっと多くて、その親が言っ

たのが。それで何かちょっと、相談しても否定されちゃうんだみたいな感じでひねくれたみたいな経験があって、何か普通のところへ行っちゃうと、やっぱりみんなに否定されちゃうんだなみたいなことを思ったからここ来たみたいなのところがあるなみたいのと思います。

（先生）

否定した張本人の1人なので、夏休みぐらいかな。塾に、本当に通信来るのって言って、でも、それはちょっと、これ本当なんだけれども、ちょっと試金石というか。これだけ否定されても来たいんだったら本物だかっていうか、安易にやっぱり選んでほしくないっていうのがあったから、これは多分話したことないんだけれども、当時はすごい嫌な顔されたのをすごい覚えている。本当に通信、8月ぐらいだよ、多分それはね。自分で覚えている、何か。

（参加者）

はい。

（先生）

16番の席で話したんだけれども、覚えている。

（参加者）

そう。覚えてます。センター長に来ないほうがいいよみたいなこと言われて。

（先生）

ごめん。本当、その場所まで覚えているね、お互いね。

（参加者）

はい。

（先生）

何かすごい嫌な顔をさせちゃったなっていう反省はあるんだけれども、でも、それでもここに来たいって言うならっていうのはちょっとあったので、普通に成績、お兄ちゃんも塾で見ていて、それなりに進学校に行っていて、本人も希望すれば普通の真ん中辺の都立高校行けたので、それに向かって頑張ってもいたから、行けるんだけれども、行かないのっていうことはしっかり伝えて、でも、うん、ここがいいと言って、そこからは言わないようにした……。保身みたいで申し訳ないけれども。そこから親御さんもだからちょっと変わっている感じになった。そこまでは何かちょっと綱引きというか、それはさせてもらって、ちょっと申し訳なかったなってそのときは。今、結果的にはここに落ち着いて、今楽しそうにやっているのを見てよかったなと思うんだけれども、そのときはちょっとハードルはありました。

（市長）

でも、人間ってほら、人生の中で何度か自分で決断しなくちゃいけないときってあって、その決断は、後悔することもあるんだけれども、自分で決めて進んだ道で何かを得られれば、それは自分としても肯定感が高まると思います。先生は、何となくこっちのほうが楽かなとか、こっちのほうが居心地がいいかなっていう雰囲気ではなくて、ある程度節目、節目でちゃんと考えた上で行動すれば、自分の人生だから自分で決めたんだっていうところを多分促そうとし

たのかなと感じました。

（先生）

いや、でもぎりぎり、半分賭けみたいなものですよ。

（改革推進課長）

ありがとうございました。

ちょっと時間も差し迫ってきまして。まだ2人、3人話していませんが市長、時間は大丈夫ですか。

（市長）

公務じゃないので、車を乗り換えて行けばいいので大丈夫です。3時半ぐらいまで延長できます。

（先生）

人間関係とかでちょっと苦労するところがあって、そこで相談先として何かフリーダイヤルがあったけれどもという話、それをしてもらえますか。

（参加者）

何か、先生とか親に相談するのが苦手で、何か知らない人だったら相談しやすいかな。

（先生）

フリーダイヤルとかもあったけれども、そこだとやっぱり自分から行きにくいみたいで、みんな結構苦手。苦手というか、よくこういう紙配られているじゃないですか。

（市長）

うちの息子ももらってくるんだけど、何かあったときには電話してくださいとか、あとは広告で「困ったとき1人で悩まないで。」テロップ流れますが、これ流して、電話するきっかけになるのかなってすごく僕の中では疑問に思います。それを見て電話ができる人のためには、それはそれであつたほうがいいと思うんだけど、それで全て解決しないと思います。電話しやすい環境をどう作っていくか課題があると考えています。

（先生）

最後、立川に転校したけれども、別室登校がうまくいかなかった理由のところだけ話してもらえますか。

（参加者）

立川の中学で学校内の別室登校に1回行ったんですけども、自習形式で結局何やっていいかわからないし、勉強も教えてくれなくて、自習もできないみたいなそう考えると何か、自習でも、でも自習形式じゃなくて、何か授業とかしてくれたらほかの人もちょうと行きやすいのかなと。

（市長）

そうだよね。学校行って、別室で自習していなさいって、習っていないんだから自習できないよね。ただ自習しておけっていう話、当然行きたくなくなるよね。つまらないものね。それで、どうなったんですか。

（参加者）

自分、1日だけ行ってやめました。

（市長）

モチベーション上がらないものね。塾ではないからマンツーマンにはなかなかならないとしても、自習ではない何があったら良かったと思いますか。

（参加者）

やることがまず決まっていたらよかったかもしれないですね。

（市長）

そうか。ほっとらかされていると感じたんですね。

（参加者）

自分で持ってきてそれをやるみたいな感じだったので。

（市長）

カリキュラムもないんですね。だから、ずっと付きっきりじゃなくても、じゃ今日はこの場所でこういうことをやっていて、分からないことあったらちょっと聞いてねみたいな、声掛けがせめてあればよかったですね。

（参加者）

そうですね。そのぐらいのことはしてほしかった。

（先生）

うちの学校、学習塾を母体に行っているんで、結構レポートとか、やる学校なんです。皆さん中学校の頃って勉強面不安でしたか。

（参加者）

追いつけなかった。

（先生）

追いつけなかった。そうか、あなたはどうですか。

（参加者）

勉強……。でも、フリースクール通っていたんですけれども、そのときはやること特に決まっていなくて、取りあえずドリルだけ詰め込んで、一応やるんですけれども、形式だけやっていたって感じ。何か学ぶ意欲とか全然ない感じでやっていました。

（先生）

そうですね。うちの授業って、一応日々レポートとか、社会とか理科とか普通の授業、あれって必須じゃないんです、通信制高校なので。でも、そこそこ受けに来るのって何でだろう。楽しいか。あと、固くないとか。

（参加者）

雑談交えながらレポートも進められたりするのです。

（先生）

僕、サッカーの話多い。

（参加者）

中学校とか行っていなかったから、詳しく何か教えてくれたりとか、何か分かりやすく教えてくれる。

（市長）

教え方がうまいんだね。

（先生）

教え方が塾っぽいというのが1個ありますよね。

（市長）

そうだよね。塾の先生って教え方下手だったら生徒は来なくなるものね。だから、それは教え方うまくなるよね。理解させてちゃんと、受験対策ということであれば、その実績出させるように、子どもたちに理解ができるような教え方をしないと、選んでもらえないから塾も潰れてしまう。学校教育の中における特に義務教育の先生が、全部やっていないなんて一言も思っていないくて、ただ、公立校はもうカリキュラムが決まっていて、がちがちで、先生たちも余裕も幅もないんです。

（先生）

うちの学校は本当1クラスの人数は少ない。集団だといってもこれぐらいなので、10人ちょっとくらいなので、授業はやりやすいといのはあります。

（改革推進課長）

非常にいいお話されていたとされていて、やっぱり学校に行かなくなった。本当にやっとの思いで通級に通った。本当にやっとの思い。にもかかわらず、やっぱりそこに通った生徒に対してどういう目的を持って対応するかということをもう少し、先生も含めて我々もちょっと考えなきゃいけないのかなっていうのは感じました。

（市長）

教育長に言っておこう。今の教育長、元小学校と中学校の校長先生をやっていた人なので、現場のことを分かっているし、立川は、僕が市長になってから小・中学校給食費無償化しているから、勉強しに来ていない人も給食だけ食べに来たっていいんだよって言ってあげられます。

不登校で学校に来ていない子に、給食ただになったから、取りあえず給食だけでも食べに来ればって言ったら、何人か給食食べに来てまた帰るらしいんです。でも、それでもいいと思っています。共同調理場のほうでも毎日、数に限りはあるけれども、親と一緒に来ても、提供しています。一応小・中学生だから皆さん対象にならないんだけど、何かきっかけがくれればいいんだよなと思いました。

これは教育長と課題共有しよう。

（改革推進課長）

ありがとうございました。

次のテーマ、次のテーマは何でもどうぞなんですけれども。ちょっとテーマにとらわれず、何かこの機会にぜひ皆さんの思い伝えたいと、これちょっとどうしても言いたいよっていうことがあれば、お願いします。

（参加者）

市長は映画鑑賞が趣味と伺ったのですが、最近何観ましたか。

（市長）

最近1人でなかなか映画を観に行けずに、子どもと観に行くので、一番直近はドラえもんだったかな。息子と娘とドラえもんとか、クレヨンしんちゃんとか、あとコナン。さすがにプリキュアは勘弁してくれと言っています。ママと行けと。最近そこら辺ばかりになっちゃう。子どもができる前までは、シリーズ終わっちゃっているんだけど、007だとか、あとはトムクルーズ系のミッションインポッシブルだとか、暴れてスカッとして、最後正義が勝つという映画が好きです。正義と悪の定義も、見方によって全然違うんだけどね。よろしいですか。

（参加者）

はい、ありがとうございます。

（改革推進課長）

何かそれ以外に皆さんありますか。

（参加者）

先ほどにも少しお話しされていたかなと思うんですけれども、うちの高校も通信制高校で、不登校の子が多いとかってどう思っているというか、どういう政策を考えているか聞きたいです。

（市長）

不登校でも皆さんは乗り越えて一步踏み出しているわけじゃないですか。強いなと思っていますんですよ。こういった学びの場が市内でも幾つかあって、それはそれでいいなって思っていて、その一方で、その一步が踏み出せない。不登校になった理由ってそれぞれなんだろうけれども、1つ、古くて、また今にも続いている問題なんだけれども、いじめってあるじゃないですか。立川の中でもたくさんあるんですよ。学校で重大案件として対処してきて、僕のところにも報告が来るんだけど、案件によっては先生の対応が適切じゃなかった場合があります。

子どもは救われておらず、不登校のままなんです。その先生が悪かったっていっても、じゃその先生に何かペナルティーあるのかということありません。

別にペナルティーを課したいわけではなくて、この救われていない子どもをどうするかというところで、学校ってどうしても人間関係を構築しようというのがメインだから時間がかかります。でも、時間がかかればかかるほど学校に行きにくくなるっていうこともあるし、そうなる前に駄目なものは駄目と言えるような仕組みを作れないかと考えています。これ一般の社会だったら、それこそ強要罪になったりだとか、名誉毀損になったりだとか、あるいは殴られていけば暴行罪とかになるんだけれども、そういった何か嫌なことを受けている状況というものを1日も早くやめさせる、そういうことが起きないような環境を立川の中で始めたいなって思っています。

今、他市で面白いことやっているなっていうところがあって、その町の市長さんとは僕話をしてきて、これを立川でもやってみたいなと思って、今担当の課長さんと係長さんに視察に行ってもらっています。そういう不登校にならなくてもいいような、その根本の原因のところが始まった早期の段階でそれを解消できるような仕組みを立川市ではつくっていききたいなっていうのが1つあります。

ただ、必ずしも学校に行くだけが人生だとは思ってなくて、人生をいかに謳歌できるのかっていうところの、セカンドチョイス、サードチョイスというところは民間でやっていただいているところもあるけれども、行政としても場所だったらっていうところは用意したいなと思っています。あとさっき話題に出た、おしゃべりできる場所もそうです。簡単そうで実は簡単ではないっていうところは、何か解決策が見出せるか考えていきたいです。物足りないかもしれませんが、何かあったら教えてください。

気づいたら先生通じてでもいいし、市のほうに言ってくれると嬉しいです。

(改革推進課長)

ありがとうございます。

あとはどうですか。それでは、どうぞ。

(参加者)

質問と願望なんですけれども、最近、巨人と立川市が協定結んだじゃないですか。協定結んで、具体的にどういった活動するのかなっていう質問と、あと自分巨人ファンなので、できれば何か巨人の選手と会えないかな。

(市長)

基本的に協定結んだことの効用としては、1軍の選手は難しいんですが、2軍の選手が、地域の学校等と交流などがメインなんです。その上で、これも2軍なんだけれども、稲城市にグラウンドを造りました。そのグラウンドで市民デーみたいな形で招待枠を設けてもらって、観戦できるような機会を提供してくれるような感じです。メインが小・中学校になっちゃっています。でも、スポーツ振興課というところが担当なので、巨人の選手と何かイベントとかで、会える機会があればいいですね。

(改革推進課長)

ありがとうございます。

それでは最後、お願いします。

（参加者）

はい。私が言いたいことというか、普通にこういう場所欲しいなっていう話なんですけれども、今私たちここにいる子たちだけじゃなくて、ほかにもヒューマンに通っている子たちも最近ボランティアとか、就労体験というか、多分写真もちょっと向こうのほうにあると思うんですけれども、カフェやっていたりだとか多分いろいろやっていて、そういう活動をしている中で、やっぱりアルバイトと違ってなかなか一歩踏み出しづらいなっていう子たちが割とそろっているかなっていうふうに思うんですね。

その体験と違っていうので、実は意外とできなくて、マクドナルドぐらいしかアルバイト体験と違ってできないんですね。ちょっと前までは私たちの学校のビルの下のところがパン屋さんだったみたいで、そこに紹介じゃないですけどもっていう感じでどんどんヒューマンの生徒が入っていたりしていたみたいなんですけれども。そのパン屋さんもうなくなっちゃって、実際、意外と立川って飲食店多いんですけども、高校生となると受からないっていうことも少なくなくて、ってなったときに働く練習ができないなっていうのがあって。じゃ何か高校生食堂じゃないけれども、子どもたちというか、高校生が何か就労体験じゃないけれども、働きつつちゃんとお金ももらえる、時給ほどじゃなくてもっていうような場所がつかれないかなっていうふうに思っていて。立川で5回くらい（アルバイトの面接に）行って、全部落ちていきます。

（市長）

それはどういう系のアルバイトですか。

（参加者）

飲食メインで行ったんですけども、どこも多分大学生とかをメインで取っていて。

（市長）

お酒を取り扱う飲食店だと難しいですね。僕は高校生の頃、ルミネの地下の肉屋でバイトしていたな。あとは引っ越し屋のアルバイトであったり、体力勝負のもの。もう40年も前だから今と全然状況は違うんだろうけれども。大学生になってからは、塾講師のバイトしたり、免許証を持っていたからルート配送などをしました。確かに高校生となると選択肢が少ないかもしれないよね。

（参加者）

アプリとかでも高校生歓迎って書きつつ、やっぱりそこに実際応募して面接を受けても落ちちゃうっていうことは結構多い。

それはそれとして、いきなりその場所（アルバイト先）に入って実際うまくいくかも分からないじゃないですか。やっぱり、自分がどんな失敗するかも分からないし、不安だし、抵抗もすごい多いと思うので、何かそういう場所がつかれたらなっていう。市役所にもはあもにっていうカフェがありますよね。何かそういう感じでできたらちょっと理想だなって思っていて。

(市長)

中学生だと職場体験がありますが、あんまり高校生対象ってないですね。

商店街の振興組合の人たちと話をしてみたりなど、何かマッチングができないかということ
はちょっと探ってみます。ちょっとこれも宿題とさせていただきます。

(先生)

不登校特例校どうですか、真面目な話をする。これもちょっとおまけですけども。

八王子の高尾山学園みたいな。通級ではなくてもう学校としてやっちゃって。八王子の高尾山学園は、八王子市内の不登校の子がそこに転校してくるんですよ。それこそ通級行ったらけれども、駄目だったとかの子が、もうちょっとそこに転校してくる形で集めて特別な取組をしています。他、世田谷とか、東京で8校ぐらいですかね。

(改革推進課長)

不登校特例校は、立川できたらちょっと面白いなと思っているんですけども。やっぱり、それこそ通級とかでもちょっと救われなかった子たちが行けるかな。

これ先生に伺いたかったんですけども、やっぱりもう学校に戻すってような考え方を改める時期に来ているのでしょうか。

(先生)

そうですね。不登校特例校は基本的にそこで卒業させますから。

(改革推進課長)

やっぱり先生、今の公立学校っていうのは学校に戻すっていうことを前提でやっているけれども、そういう状況ではないんじゃないかっていうような投げかけなんですかね。

(先生)

そう思います。

(市長)

1回見に行つてこようと思います。なかなか自分で理解しないと話もできないし、判断もできないですし。

(改革推進課長)

いろいろ尽きないところでございますけれども、これをもちましてタウンミーティングを終了したいと思います。

本日いただいた貴重なご意見、本当にお辛い経験の中でいろいろお話ししていただいてありがとうございました。これを参考に、市長にとっても貴重なご意見ということで、今後につなげてまいりたいと思っています。ありがとうございます。

最後に市長から一言お願いいたします。

(市長)

今日は、2時間ちょっと皆さんのいろんなお話を伺うことができて、僕自身も市長として、これから立川の市政の中でかじ取りをしていく上で大変貴重な意見を聞かせていただきました。

なかなか一朝一夕にできるもの、できないものあろうかと思いますが、特に教育部門といろいろと話をさせていただいて、少しでも皆さんの経験が、次の子どもたちにちゃんと活かされるようにしていければなというふうに思っています。

皆さんには、ある意味大変な思い、つらい思いをしても、先ほども申し上げましたけれども、一歩前に踏み出せた勇気のある強い人だと思いますので、どうかこれからもそれぞれの道を模索をしながら頑張ってくれればと思います。若いうちの失敗というのは、やり直しが利きます。これがだんだん年を取ってくると、うまくいったときとうまくいかなかったときの落差が激しくなります。皆さんには無限の可能性があるので、ぜひ頑張ってもらいたいと思っています。

僕の経験談で、この間も星槎国際高校の皆さんにもお伝えをしたので、参考程度に聞いていただければと思いますが、257票及ばずに、僕は立川市長選挙1回落ちています。その前に、僕は26歳から市議会議員をやっていて、市議を2期やって、その後都議会議員を4期やって、5期目の選挙で落ちました。800何票足らなかったのかな。落ちているときに、僕の政治家としての最終目標は市長だと思ったので、市長選挙に出て、それでも駄目だったらもう政治家引退しようと思っていたんだけど、あまりにも僅差だったので、諦め切れずに1回都議会に戻って、2年前に市長になりました。自分で諦めるまでは負けではない。最後まで頑張れば、ならないときもあるけれども、なることもある。

人生っていろんなことがあって、選挙で負けているときに僕は訪問介護の事業所を運営していました。資格取って、50に近くなってから介護職員の資格取って、実務者研修やって、会社つくって、人を雇って、ヘルパーさん、そのときにはちょっと現場も出してみました。政治家だけでは、制度は分かっていたんだけど、実務とか実態は分からなかったのがよく分かった。昔の言葉で「人間万事塞翁が馬」という故事成語があります。そのときは悪いかと思って、経験したことの中に無駄なことというのはないので、何か自分にとってちょっとなと思って、そのときの経験が振り返ってみたらいい経験になったなっていうふうに思えることもあります。

経験していたから、今いろんな市民の方から要望を言われても、その言っている意味が分かります。昔の僕だったら意味が分からなかった。ということは、自分にとって経験になったからよかったなと思うので、ぜひ皆さんも何か悪いことがあっても、そこで学んでいることがまた別のところで生かされるかもしれないということを覚えておいてください。

あとは、選挙をやっていると、受かっているときには僕のまわりに人がたくさん集まりますが、落ちると去っていく人もいます。会っても挨拶もしなくなる人もいます。でも、そういうときに、自分が大変なときに寄り添ってくれる人もいます。その寄り添ってくれたり、助けてくれたりしている人の恩というのは一生忘れない。皆さんも、自分がつらいときに去っていくような人とはほどほどに付き合えばいいですが、自分が困っているときに助けてくれる友達であったり、あるいは全く赤の他人でも、そういう人を大切にして、その人が何かあったときには今度自分が助けてあげようと思ってくれると嬉しいです。

僕自身もそう思ってこの政治家という家業をやっています。失敗もしながら、それを糧にして何とか市長を2年間やっていて、続けられるまで続けようと思っていますので、これからまちで会ったら気軽に声かけて、皆さんの老けたお父さんぐらいに思ってくれればうれしいなと思います。今日はありがとうございました。

(改革推進課長)

これでタウンミーティングを終了させていただきます。ありがとうございました。

— 了 —